

長崎派遣後の 活動の報告



被爆 71 周年我孫子市平和祈念式典

8月13日、我孫子市原爆被爆者の会との共催により、被爆71周年平和祈念式典を開催しました。式典には約120名の方が参列し、原爆犠牲者に哀悼の意を捧げるとともに、核兵器の廃絶と平和を祈りました。今年度の式典では、初の試みとして司会を歴代の派遣中学生に担ってもらうなど、若い世代が中心となって平和事業を展開していけるような工夫がなされました。

平成28年度長崎派遣中学生は式典において市民の前で紹介され、代表で団長から派遣の感想を報告しました。また、当日の参列者とともに我孫子市平和都市宣言の読み上げを行った後、派遣中学生の代表2名が千羽鶴を奉納し、それぞれが献花を行いました。

さらに、式典後には平和事業推進市民会議による映画上映会が実施されました。今年は、佐々木禎子さんの折り鶴に関連するアニメ映画つるのこゆき「とも子の冒険」と、「ちいちゃんのかげおくり」が上映され、長崎派遣中学生全員が参加しました。

◆ 式典スケジュール

平成28年8月13日（土）9時30分から 手賀沼公園「平和の祈念碑」前

進行：平成20年度広島派遣中学生 大塚 雅己

平成22年度広島派遣中学生 郡山 琴美

時 間	内 容
9 : 3 0	開式
9 : 3 2	詩の朗読「原爆の思い出」（勝矢 美子） 「ピカドン」（日山 久美子） 朗読：平成24年度長崎派遣中学生 小谷 典子
9 : 3 7	参加者全員による黙祷
9 : 3 9	式辞 主催者／原爆被爆者の会 会長 宮田 将則 主催者／我孫子市長 星野 順一郎
	ごあいさつ 来賓／我孫子市議会議長 坂巻 宗男 来賓／千葉県議会議員 今井 勝 来賓／千葉県議会議員 水野 友貴
	紹介 我孫子市議会議副議長 西垣 一郎、我孫子市副市長 青木 章 我孫子市教育長 倉部 俊治
1 0 : 0 0	長崎派遣中学生紹介・報告 ①派遣12人紹介 紹介：大塚 雅己 郡山 琴美 ②代表挨拶・報告 団長

10:10	我孫子市平和都市宣言読み上げ（長崎派遣中学生を中心に全員で）
10:15	千羽鶴の奉納 奉納：派遣中学生 石嶋 心愛（副団長）
10:20	献花（代表～派遣中学生～参加者全員）
10:35	閉式



長崎派遣中学生の献花の様子



長崎派遣中学生の紹介の様子



団長による派遣報告の様子

◆ 我孫子市長 式辞

広島と長崎に原爆が投下されたあの忌まわしい日から 71 年目を迎えました。

原子爆弾は、一瞬のうちに多くの尊い生命を奪っただけでなく、辛うじて一命をとりとめた人々にも、心身共に生涯消えることのない深い傷を残しました。

原子爆弾並びに先の大戦で犠牲となられた御霊に対し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。さて、我孫子市では昨年、核兵器の廃絶を願い広島市から分火した「平和の灯」（へいわのともしび）を設置し、戦争の恐ろしさと平和の大切さを伝えていくために佐々木禎子さんのご遺族から寄贈された「禎子鶴」を展示しました。

佐々木禎子さんの折り鶴は、今年の 5 月にアメリカ大統領として初めて広島を訪れたオバマ大統領が感銘を受け自ら折った折り鶴を寄贈したという話をご存じの方も多いためです。

禎子さんが実際に折った折り鶴はアビスタ館内に展示されていますのでどうぞご覧になってください。

また、平成 17 年から中学生を広島・長崎に派遣し、今年度で、12 回目となりますが、今年も市内の中学校から 12 名の中学生が長崎の平和記念式典に参加しました。

今なお原爆による被害に苦しむ方々が大勢いらっしゃることを思えば、いかなる国のいかなる核兵器に対しても、廃絶することを求めていくことが我々の使命であることは明らかであり、長崎平和記念式典に参列して、改めて思いを強くいたしました。

私たちは今後も、平和宣言都市として、核兵器の廃絶と世界の恒久平和の実現に向けて、一步でも前進するよう、多くの人々と連携の輪を広げていくことに、全力を尽くすことをお誓い申し上げます。

結びに、「被爆 71 周年平和祈念式典」を挙げるにあたり、ご来賓各位並びに被爆者の方々のご臨席と、多数の市民の方々のご参列をいただき、厚くお礼申し上げます。また、被爆による不安・苦しみと戦いながら、今年も市とともに平和祈念式典の開催にご尽力いただいた「我孫子市原爆被爆者の会」の皆様方のご努力と、核兵器廃絶・世界恒久平和への熱い思いに対し、心から敬意を表すとともに被爆者並びにご遺族の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げまして、式辞といたします。

平成 28 年 8 月 13 日

我孫子市長 星野 順一郎

◆ 長崎派遣中学生代表挨拶・報告

僕たちは、8月8日から10日まで我孫子市の長崎派遣中学生として長崎に行ってきました。この3日間、僕たちは、青少年ピースフォーラム、長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に参加した後、国立長崎原爆死没者追悼祈念館と原爆資料館の見学をしました。

青少年ピースフォーラムでは、被爆当時16歳だった永野悦子さんから被爆体験の講話を聞きました。永野さんは戦争のために、勉強もできず、工場で働き、さらに自分の母親と兄弟までも失ってしまったとのことでした。それを聴き、このような戦争は、とても悲しいし、絶対にしてはいけないものだと強く感じました。

その後、フィールドワークで3つのコースに分かれ、街なかにある原爆の被害を受けた建物などを見て回りました。僕は実際に原爆の被害を受けた建物を見たり、被爆したものを触ったりすることで、原爆の爆風や熱線の威力を肌で感じることができました。

長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典では、安部総理大臣のお話や、原爆死没者名簿の奉納などがありました。今年、原爆死没者名簿には、我孫子市原爆被爆者の会第3代会長の久保明次さんの名前も記名されました。久保さんは71年前に長崎で被爆し、生前、平和のために我孫子市で一生懸命活動をされていました。僕は久保さんの思い、そして犠牲になった方々の市を無駄にしないように、これからもっと平和の大切さをいろいろな機会を通じて伝えていきたいと心に誓いました。

式典後、平和学習に参加し、日本各地から集まった中学生や高校生たちと話し合いをしました。その中で、戦争や紛争によって苦しい生活をし、毎日が死と隣り合わせになっている小さい子どもがどのような気持ちなのかを考えました。僕は今、自分の好きなことができたり、不自由のない生活を送れることがどれほど幸せなことなのかを改めて知りました。

国立長崎原爆死没者追悼祈念館と原爆資料館の見学では、11時2分で止まった柱時計や熱線によって一瞬のうちに溶け、表面がブツブツとした瓦などがありました。たくさんの展示物が当時あった出来事を生々しく物語っていました。もし僕がこの時代にいたなら、苦しみに耐えきれなかったことだろうと思いました。

夜は、稲佐山の夜景を見に行きました。71年前に原爆によって焼け野原となった長崎をここまで復興してきた人々の努力は計り知れないものだと思います。

僕は、この3日間で学校の授業で習ったこと以上に、戦争、原爆の恐ろしさについて知り、わかるようになってきました。戦争は人の心を傷つけ、苦しみを生み出し、幸せを奪うものです。戦争は絶対にダメです。僕は学んだ事を今後の生活に活かし、身近なところから平和を発進していきたいと思いました。そして、今ある幸せを大切にします。

平成28年8月13日

我孫子市中学生長崎派遣団 団長 早坂 弘宇

各中学校での報告

長崎派遣後、2学期には派遣中学生は各々の中学校の生徒に対し派遣報告を行いました。総合学習の時間や全校集会の際に時間を設けるなど、報告の機会は各中学校によって様々ですが、長崎派遣の体験を通して感じた、戦争・原爆の恐ろしさ、平和の大切さを派遣中学生それぞれの言葉で同世代の在校生に対して伝えられています。

◆ 各中学校での報告

布佐中学校	①平成28年9月23日(金) 総合学習の時間にて
	②平成28年11月26日(土) 文化活動発表会にて
久寺家中学校	平成28年10月21日(金) 文化学習活動発表会にて
湖北台中学校	平成28年10月29日(土) 文化祭(雄飛祭)にて
湖北中学校	平成28年10月29日(土) 文化祭にて
白山中学校	平成28年12月22日(木) 終業式にて
我孫子中学校	平成28年12月22日(木) 終業式にて

◆ 報告の様子



▲布佐中学校での報告の様子



▲久寺家中学校での報告の様子



▲湖北台中学校での報告の様子



▲湖北中学校での報告の様子



▲我孫子中学校での報告の様子

広島・長崎派遣中学生リレー講座への参加

2学期は、長崎派遣中学生は「広島・長崎派遣中学生リレー講座」に参加しました。

このリレー講座は、平成27年度の戦後70年平和事業としてスタートしたもので、これまでに広島や長崎に派遣され、今では高校生や大学生となった歴代の派遣中学生たちが市内の全小学校の6年生の児童のみなさんに平和をテーマにした授業をするものです。

1時間の授業の中で、派遣体験のこと、原子爆弾のこと、身近な平和について考え、授業の最後には「平和な世の中にするために今日から自分ができること」をテーマに平和の木の葉っぱに平和のメッセージを記入します。この葉っぱに書いた平和のメッセージを授業が終わった後、一本の木が描かれた模造紙に貼り付けて、各小学校の「平和の木」を完成させて、今では各学校に貼りだしていただいています。

◆ リレー講座の様子



▲ 歴代派遣中学生が講師を務め、アシスタントとして参加

▲ 平成27年度派遣中学生も参加





▲各小学校の平和の木を作成

▲市長・教育長が見学されるほか、教育委員の方々にもご見学いただいている。

◆ リレー講座の感想（久寺家中学校 齊藤 寛人さん）



僕は根戸小学校のリレー講座に参加しました。リレー講座では、真剣に話を聞いてくれている小学生や、感想をしっかりとメモにとる小学生が多く、このまま平和が続いていくのではないかと感じました。また、僕がもらった感想には、争いをなくすために争いをしてもいいのか、平和とは何かなど、真剣な意見がとても多く、うれしく思いました。

市民への報告会に向けて

12月に実施する市民への報告会に向けて、派遣中学生は2学期中に数回集まり、発表内容の打合せを行ったり、実際に発表する練習を行ったりしました。

報告会での発表内容は、グループごとや学校ごとに話し合い、来場された市民のみなさんにどうしたら長崎派遣を通して自分達を感じた思いを伝えられるかを考えながら作り上げました。

◆ 報告会に向けた練習の様子



平和の集い～我孫子から平和を願う～

12月4日（日）に、けやきプラザ2階ふれあいホールで「平和の集い～我孫子から平和を願う～」を開催しました。平和の集いには約300人が集まり、8月に長崎に派遣された中学生による派遣報告などに耳を傾けました。

また、平成28年度は長崎市と初の共催で「ナガサキ原爆被災展」を同時期に実施しており、その一環で、長崎市から講話者にお越しいただき、被爆体験講話を実施しました。

第1部 13時05分～

◆ 長崎原爆被爆体験講話

原田 美智子さん（被爆当時6歳）

爆心地から4kmの屋外で被爆。爆風により割れたガラスで負傷しました。街全体が燃えていく様子が脳裏に焼ついて離れません。祖父、父、母、胎内被爆した弟を原爆により亡くしています。平和な世の中を願って、原田さんから原爆の悲惨さなどのお話が来場者に向けて伝えられました。



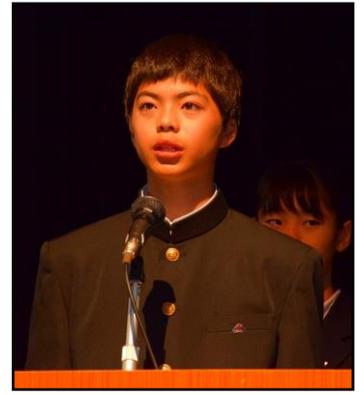
空襲警報の音声を流したり、当時の服装を着たりしながら、当時の様子を語られました。

第2部 14時10分～

◆ 長崎派遣中学生報告会 ～長崎平和祈念式典に参列した中学生による報告～

8月8日から10日、市内中学校の代表12人が被爆地・長崎を訪れ、平和について学んできました。長崎での活動の様子や現地を見て・聞いて・感じたことを、スライドを交えながら報告し、自分たちの言葉で平和への思いを語りました。





当日の報告の様子

第3部 15時20分～

◆ 朗読劇「今は春べと咲くやこの花」

我孫子中学校演劇部

我孫子中学校の演劇部が、吹奏楽部のサックス演奏をBGMに、長崎を舞台にした平和朗読劇を演じました。

<内容>

爆心地から約700mの距離にあった山里国民学校で教師を務めていた山崎壽子(としこ)さんの体験手記をもとに創作された物語



▲全体集合写真